

新たな評価指標のあり方の検討

新たな評価指標のあり方の検討

- 前回の評価会議等において、「アクセシビリティやユーザビリティを視点とした評価指標を検討する時期に来ているのではないか」といったご意見があった。
- 当該ご意見等を踏まえ、評価会議における評価のあり方（評価指標）について検討する。

【対応方針】

- ・ バリアフリー化の進展に伴い、「バリアフリー化の質」を評価することは非常に重要。
- ・ 評価指標の策定に当たっては、関係各者との議論を重ねることが必要であり、具体的な事例を用いることでより円滑に議論が進められると考えられる。
- ・ そのため、今後、当事者参画による意見交換会や現地視察も含め、アクセシビリティやユーザビリティを視点とした公共交通機関等での「サンプル評価」を実施し、評価会議において結果を報告、ご意見を伺った上で具体的な検討を開始する。
- ・ 年に2回開催している評価会議のほか、意見交換や現地視察を行うWGの設置を検討。
- ・ 中央大学研究開発機構等による「空港のユニバーサルデザイン」を参考に検討を実施。

【今後の検討に向けた留意点】

- ・ 全ての人々が平等であるという点を実現するための「柱」となる考え方をどう設定すべきか。
- ・ 施設の種類、規模、地域性の違い等について、評価のあり方や実施手法をどう考えていくべきか。
- ・ 新たな評価指標や評価結果をどのように具体的な施策に反映していくか。

【スケジュール（案）】

○令和3年度

- ・ 10月～ 評価指標の検討の本格実施
- ・ 3月 第7回評価会議にて進捗報告、WG設置等

○令和4年度

- ・ WGによる意見交換会・現地視察の実施
- ・ 第8～9回評価会議において進捗報告・意見聴取



空港のユニバーサルデザイン

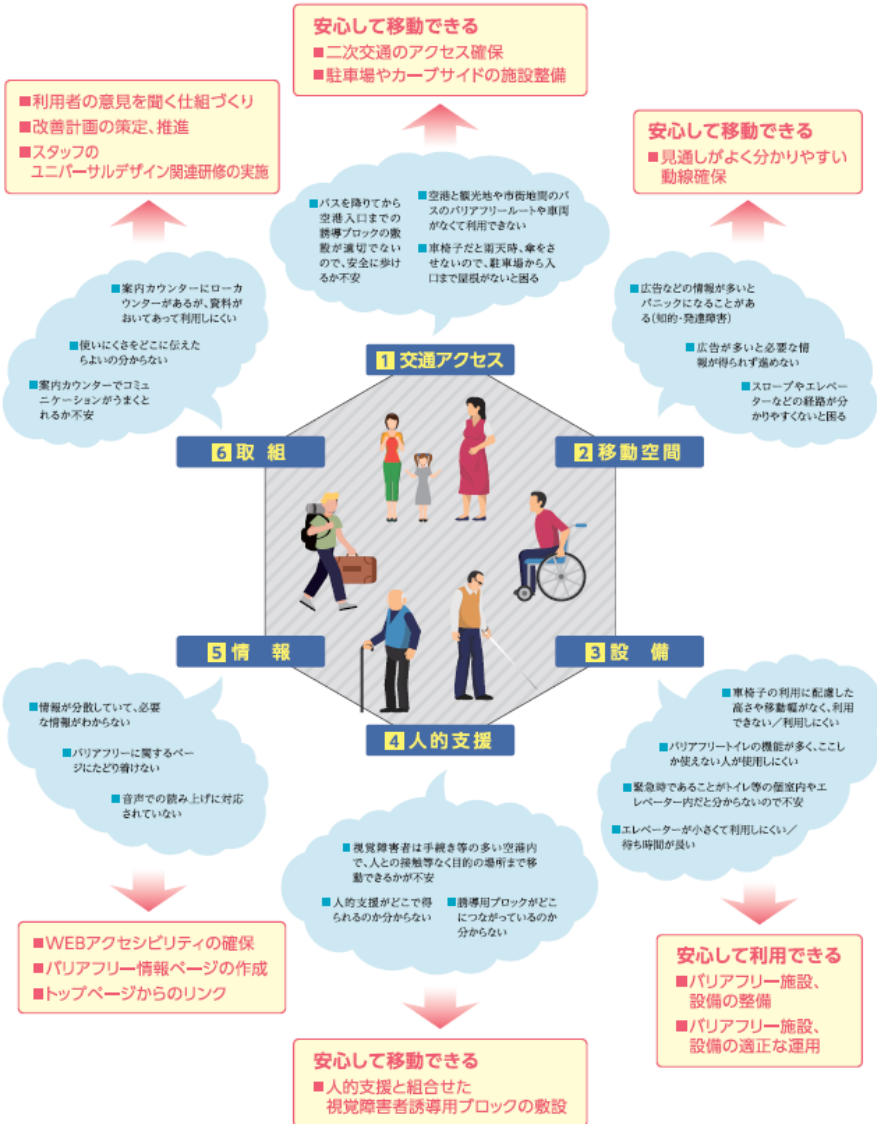
誰もが使いやすい空港をめざして

2021年3月

中央大学研究開発機構
一般社団法人全国空港ビル事業者協会
公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団
八千代エンジニアリング株式会社



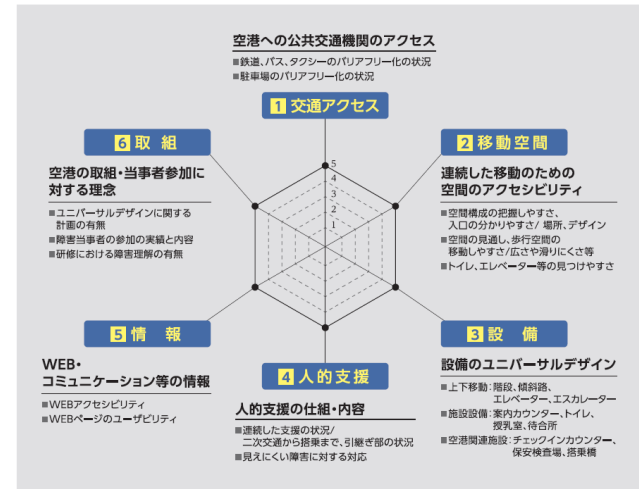
1-1 空港における多様な利用者の困りごとと、その対策



1-2 診断の目的と課題解決のための診断項目

空港におけるユニバーサルデザイン診断では、ハード・ソフト両面からの計画作成をすすめるために、現在の空港のユニバーサルデザインの実態について把握し改善のための方針を明確にすることを目的としている。

多様な利用者が使いやすい空港とは何かという視点で、ここでは、3.設備のユニバーサルデザインだけでなく、1.空港への公共交通機関のアクセスや、2.連続した移動のための空間のアクセシビリティ、4.人的な支援の仕組みやその内容、5.WEBやコミュニケーションなどの情報、6.空港の取組や当事者参加に対する理念などを含めた総合的な視点となるように、診断項目を設定した。



1-3 空港におけるユニバーサルデザイン診断の実施

本診断は2019年度より中央大学ユニバーサルデザイン・プロジェクトチームが実施している。これまで8空港から協力を頂き、診断を行ってきた。

中央大学ユニバーサルデザイン・プロジェクトチーム

中央大学研究開発機構 秋山研究室 (公財)交通エコロジー・モビリティ財団
 (一社)全国空港ビル事業者協会 八千代エンジニアリング(株)



診断対象空港・実施期間

- 1 小松空港:2019年9月25日
- 2 旭川空港:2019年10月10日
- 3 出雲空港:2019年10月29日
- 4 宮崎空港:2019年11月21日
- 5 那覇空港:2020年9月3日
- 6 山形空港:2020年10月16日
- 7 徳島空港:2020年10月23日
- 8 鹿児島空港:2020年11月12日

